

ニャクゴム＝リンチェン・ルンドゥブ
 (Nyang sgom Rin chen lhun grub) による
 2つのキャントゥル＝ナムカ・ギェルツェン
 (sKyang sprul Nam mkha' rgyal mtshan) 伝の
 デイプロマティック・エディション

三宅伸一郎

キャントゥル＝ナムカ・ギェルツェン (sKyang sprul Nam mkha' rgyal mtshan, 1770-1833) は、18世紀末から19世紀半ばにかけて活躍したボン教の重要な師である。彼は主に東北チベット・アムド地方の東部にあるダチェン寺 (mDa' chen dgon pa) およびカルモ・リトー (dKar mo ri khrod) を拠点として活動した。「カンド・サンチョー (mKha' 'gro gsang gcod)」とよばれる一連の断境 (gcod) の修行法の再構成者、「イダム・クンドゥー (Yid dam kun 'dus)」とよばれる本尊観想法、「キャン流 (sKyang lugs)」とよばれる読経法の創始者として重要な人物であるにもかかわらず、管見の及ぶ限り、彼の生涯や教えに対する研究は存在しない。

彼の生涯を研究する上で最も重要な史料は彼の伝記 (rnam thar) である。2つの伝記が存在する。1つ——Text A と称する——はカテン (bka' brtan) 集成の第200巻にある23フォーリオからなるウメー書体で書かれた写本である。もう1つ——Text B と称する——は、同じくカテン集成の第41巻にある41フォーリオからなるウメー書体で書かれた写本である。両者はともに、「黄金の鏡 (dNgul gyi me long)」という同じ題名を持ち、キャントゥルの弟子であるニャクゴム＝リンチェン・ルンドゥブ (Nyang sgom Rin chen lhun grub) という人物によって著された。

Text A の奥書は、これが「鉄の龍の年」に著されたたと述べている。この「鉄の龍の年」がいつのことなのかを考える上でまず注意すべきことは、Text A がキャントゥルの逝去を述べていないという点である。これは、Text A が彼の生前に著された可能性を示している。さらに Text A には「今年、宝の蔵といわれる全集を

まとめ始めた際、私は、師の伝記を聞きたいと師に何度も願い出た。リンポチェ〔=師〕はそれを受け入れ、私に詳細ではない簡単な記録を与えてくれた。この伝記はそれをもとにしている」とある。これは、Text A の著者が彼の師、すなわちキャントゥル=ナムカ・ギェルツェンから直接与えられた情報をもとに Text A を書いたことを示している。さらに Text A には、「私は17歳の時ポンの門に入った。50歳になる今に至るまで」というキャントゥルの言葉が引かれている。キャントゥルの50歳はちょうど「鉄の龍の年」、西暦に換算すれば1820年にあたる。以上をまとめると、Text A はキャントゥルの生前の「鉄の龍の年」すなわち1820年に著されたものと結論づけることができる。

Text B の著作年代ははっきりしない。しかし、キャントゥルの逝去を描写しているため、死後著されたものであることは疑いない。

本稿はキャントゥル=ナムカ・ギェルツェンの2つの伝記（Text A および Text B）の Diplomatic Edition である。現在に至るまで、この2つの伝記には、それぞれ1種類の写本しか確認されていない。それゆえ現状では、この2つの伝記に対する校訂テキストを作成することは不可能である。原本には綴りの誤りなど、数多くの誤記が見られる。本稿では、そうした誤記を修正するとともに、修正を施した箇所については原本における表記を脚注に示した。本稿の Introduction には、この2つの伝記に基づいたキャントゥル=ナムカ・ギェルツェンの略伝を付した。2つの伝記の翻訳および詳細な研究は今後の課題としたい。